

府立箕面支援学校 「学校協議会」報告 （第2回）

日時・場所	平成 25 年 3 月 11 日（月） 本校・校長室		
出席者	協議会委員	所属・職名等	学 校（職名・校務分掌等）
	藤江 康彦	東京大学大学院・准教授	校 長
	辻 優子	吹田市立 わかたけ園・園長	教 頭 2 名
	本校保護者	本校 PTA 副会長	事務長
			首 席 1 名
			記録者（首席）
主な内容	学校教育自己診断と授業アンケートの集計結果と本校の課題・検討事項について 平成 24 年度・平成 25 年度の学校経営計画について		
説明・質問・協議内容等	①・学校教育自己診断（保護者）の集計結果 ・学校教育自己診断（教職員）の集計結果 ・授業アンケートの集計結果 ② 本校の課題・検討事項（集計結果より）について ③ 平成 24 年度の学校経営計画の進捗状況・平成 25 年度の学校経営計画について ④ 各委員よりの意見・提言 ＜藤江委員＞ ・授業アンケート等で、わからないという項目が多いことに関して言えば、アンケートの答え方で、対象となる項目にのみ答えるようにすれば、わからないという項目は減少する。また、アンケートで聞く内容そのものが、保護者への情報の提供になっている場合が多くある。 ・長期休暇や放課後の活動の場所として、学校外で確保できるのであれば、そちらの精選をすればよいのではないだろうか。 ・教員のレベルアップについては、研修も必要だが、お互いの授業を見学できるような工夫があるとよい。また、個々の教員に適合する研修内容の検討が必要だと思う。 ・学校経営計画を教員が知ることにより、管理職の考え方が分かる。それにより、学校の進むべき方向に向けて、授業の組み立てかたを工夫することができる。 ・ミドルリーダーの活用やパディシステムも効果が大いと思う。 ＜辻委員＞ ・長期休業になると、学校外の施設では、外来訓練参加が増える、学校ではプール等の登校日が増えればよいが、現状のままでも、デイサービス等の活用が広がればよい。 ・職員の育成については、施設によっては職員の入れ替わりが、あまり多くない場合があるが、共通の課題や、経験年数等に合わせて、研修内容を変える必要がある。メンタルヘルスも必要だと思う。 ・災害対策においては、情報収集の方法を考えておく必要がある。		

説明・質問・協議内容等	<保護者委員> ・放課後や長期休業の時、小学校では、学童保育というシステムがあるが、中学部や高等部になると、行政で行われている放課後デイサービス等を進めることはできないだろうか。その際に学校からデイサービスの様子を見に行ったり、活動の助言などをしてもらおうと親としては安心出来る。 ・授業参観アンケートでは、無記名で自由に書けるスペースがあると書きやすい。本校では児童生徒の状況が多様化していて、質問の中で共通性が少ない項目があり、そういう部分は答えにくい。また、全校的な理解は難しい所がある。 ・支援学校は対応が難しい仕事が多くあり、経験の少ない教員へのメンタル的なケアの体制を強化する必要があるのではないだろうか。 <校 長> ・めざす学校像に向けて、4点の中期的目標、10項目の重点として取り組みを展開していく。 ・授業アンケートは、教員の授業力アップが目的である。また、新しい取り組みとして教員の評価にもかかわっている。また、高等学校では、生徒へのアンケートが実施されており、回答数が多いので、集計結果が分かりやすいが、本校では、慎重に進捗中である。 ・現在、教員が児童生徒に向き合う時間の確保のために、来年度に向けて組織改編の取り組みを進めている。この中で、ミドルリーダーの活用を視野に入れた組織になるように、また、バディシステム等を採用する中で、人材の育成を図っていききたい。 ・教員の研修についても、統一テーマに基づいて企画し、系統的な研修を実施していく。 ・教員のメンタル的な対応については、個別の対応が基本で、気軽に相談できる様に心がけている。また、全体的に相互理解の啓発をしている。 ・防災対策については、備蓄品の準備と共に、児童生徒が在校中、登下校途中、在宅中の3パターンで情報収集を含めての対応方法について検討を進める準備をしている。
-------------	--